

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292800016	
法人名	特定非営利活動法人 EVERGREENCLUB	
事業所名	グループホーム エバーグリーンクラブ	
所在地	千葉県鴨川市太海2175-1	
自己評価作成日	平成22年3月15日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング	
所在地	千葉県木更津市長須賀1631-8	
訪問調査日	平成22年3月23日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは、風光明媚な太海海岸まで徒歩1分という大自然に囲まれた場所にある。その恵まれた環境の中、燦々と降りそぐ太陽の下で、毎日ウォーキングすることで、筋力低下予防と合わせ心と体のリフレッシュ効果を図っている。栄養学の専門家である理事長、某ホテルで修行した料理長の両氏がコラボレーションしているエバーグリーンクラブの食事。鯉節から出汁をとって作る味噌汁やお吸い物、小麦粉の生地作りから始める手作りのパン…。食事時になるとそれらの匂いがホーム中に漂ってきて、自然と食欲が湧いてくる。季節感だけでなく、利用者の年齢・嗜好までも考慮して、毎日の食事が豊かで食べること・そして生きることの楽しみとなるよう力を入れている。常勤のケアマネジャー1名の他、精神認定看護師の有資格者であるケアマネジャーを1名配置して、事業所内で従業員教育の一環として毎月研修会や介護技術のレクチャーを実施したり、定期的にすすんで従業員に外部への各種研修に参加させて、職員への教育と質の向上を図っている。所在地が設立者・理事長の出身地ということで隣近所は長年のおつき合いを重ねた友人や親戚が多く、いざという時の力強い協力者となっている。平素からお茶飲みや頂き物・おすそ分けのやり取りをして、良好な人間関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設周辺の環境は観光地域の海辺にあり、天気の良い日は絶好の散歩コースとなっていて、地域住民がお花を植え付けるなど協力してくれるので、利用者は楽しんでいます。サービス面でアセスメントシートを取り入れたことにより利用者や家族の希望をしっかりと取り入れる事がなされ改善されています。今後施設ではスプリンクラー設置や安全な避難経路改修による防災体制の改善、利用者が参加しやすいキッチンの改修を検討されていますので、良いものが出来そうですよ期待しています。理念を事業所内に掲示し、案内パンフレットに記載する等、前回評価を基に早速実践している。又本人本位の暮らしを支援する為に、訪問看護師や福祉用具事業所の担当者等の事業所以外の者の意見も取り入れると共に、スタッフ6人で構成する作成委員会で作成している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を記載したものを額に入れ、事業所内の目につく場所へ掲示することにより、常時意識付けを図っている。合わせて、パンフレット内にも、理念を記入している。	理念をホーム内に掲示するとともに、案内パンフレットにも記載し、職員及び訪問者にも周知を図っている。又、日常ホーム長が職員とのコミュニケーションを通して、理念の意識付けを図っている。	理念が実践に反映しているかどうかを、検討する機会を作ることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほぼ毎日事業所周辺を散歩して、地域の方々と挨拶を交わし合っている。	ほぼ毎日の周辺の散歩の途中で、近隣の方の花を觀賞したり、挨拶を交わしている。	地域のゴミ拾いや、定期的な神社掃除など、地域の行事に利用者と共に参加することを計画している。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	鴨川市主催のメモリーウォークに参加して、事業所の取り組みについて、ポスターを作成して公表したりしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度必ず会議を開催して、委員からの意見を取り入れ、サービス向上に活かしている。	評価結果を運営推進会議に報告し、委員からの意見を事業運営及びサービスの向上に活用している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、相談・協力を得ている。	業務運営などについて、市に積極的に相談し、協力を得られる関係を作り、市との連携の確保に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止」の研修に参加して、事業所内でも勉強会を開いて、身体拘束をせずにケアに取り組んでいる。	県の研修に参加したり、事ある毎に事業所内で勉強会を行い、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」の研修に参加して、事業所内でも勉強会を開いて、防止に努めている。また入居者一人につき月に2回ずつ、入浴時に身体チェックを行っている。		

グループホーム エバーグリーンクラブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」の研修に参加し、実際に利用者の後見制度を利用して、その関係者と話し合いを持ったりしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭と文書にて十分な説明を行い、理解・納得をしていただけるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族がいつでも気兼ねなく意見や要望を言える雰囲気作りを心掛け、運営に活かせるよう努めている。	家族の意見を聞くための話し合いの機会を積極的に作るとともに、家族にはホームに出来る限り訪問するよう促している。	家族と事業所との情報交換を密にするため「連絡帳」を作り、それらの活用について検討されることを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者・家族がいつでも気兼ねなく意見や要望を言える雰囲気作りを心掛け、運営に活かせるよう努めている。	ケアカンファレンスや、全体ミーティングで出た職員の意見等について、運営者や管理者に報告し、問題点や課題の共有化に努め、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業者内の行事や会議、外部への研修参加ごとにレポート提出させ、それにより勤務状況等を把握し、就業環境の整備に反映させている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのレベルにあった研修を選定し、受ける機会を設け、レベルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同郡市内のグループホーム間において、人材交流研修会を定期的に設け、他の事業所での取り組みや工夫を自事業者内に取り入れている。		

グループホーム エバーグリーンクラブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前事前に本人と面談して、本人の不安や要望等を聴いたり、体験入居期間を通じて徐々に、グループホームの生活に慣れていただく等の機会を設けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前事前に家族と面談して、家族の不安や要望等を聴く機会を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で必要と思われる福祉用具等の選択を介護ショップの担当者へ相談したり、持病に対する定期受診の対応を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	音楽を聞きながら一緒にお茶を飲んだり、掃除・洗濯を共に行って、関係作りに努めている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会にみえる機会を設ける為のレクリエーションを企画し、参加していただけるように工夫している		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅へ戻ったり、自宅付近までドライブする機会を設けて、関係継続できるよう努めている。	地域のみかん狩りや祭り、又、友人の家に行ったりして、継続的なつながりが途切れないよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで利用者同士が話しやすい雰囲気作りを心がけたり、レクリエーションを通じて交流を図れるよう努めている。		

グループホーム エバーグリーンクラブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用が終了しても転院先の病院へ面会に出向いたり、家族とは地域住民としての関わり等で関係を継続するように心がけている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の入院先の病院へ訪問したり、本人・家族との面談により情報収集して、希望や意向の把握に努めている。できるだけ、本人の希望に添った意向を大切にしている。</p>	<p>入居前の利用者の情報を詳細に把握するとともに、利用者とのスキンシップを積極的に図り、思いや希望の把握に努めている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の家族との面談や、それまでの担当のケアマネジャーやケースワーカーから、生活歴や生活環境等の状況を聞いて、その把握に努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日のバイタルサインチェックや定期的なADL評価表の見直しにおいて、一人ひとりの現状の把握に努めている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネジャーが主体となり、本人・家族や必要時には訪問看護師や福祉用具取扱事業者など、必要時とは訪問看護師や福祉用具取扱事業者と話し合い、それぞれの意見を取り入れて、介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族はもとより、福祉用具取扱事業者など、外部の者の意見も聴き、それらの意見を反映させる為のスタッフ6人の作成委員会で介護計画を作成している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々のケアの実践をひとり一人個別に記録し、業務の引き継ぎ時における申し送りを通して情報を共有しながら、変化があった際の介護計画の見直しに反映させている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>遠方から面会にみえた家族への食事の提供や本人、家族の希望による選挙の投票所までの引率など、柔軟な支援に取り組んでいる。</p>		

グループホーム エバーグリーンクラブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外国人によるレクリエーションや編み物教室などを取り入れて、本人の有する能力を発揮しながら、楽しむことができる機会を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時に協力医療機関の専門医やかかりつけ医に相談したり、職員が家族の代わりに受診に同行したりして、支援している。	希望に応じて家族と一緒に受診が出来るように、または職員が家族の代わりに同行するなどして支援がなされています。市からの訪問看護師や職員の看護師で健康管理も行われています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の観察の中でとらえた健康面や身体機能の変化を普段から記録に残して、訪問時に看護師に相談するようにしている。そして適切な受診の指示を得ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の各医療機関の医師や看護師、ケースワーカーと普段から気軽に相談できる関係作りに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ重度化する前に普段の関わりから本人の異変に気づき、家族へ報告・説明してから、医療機関の関係者や訪問看護師へ相談して受診するようにしている。	医療連携体制加算を取っており、リスクが考えられる利用者にはバイタルサインなどで職員全員が注意を払う事が出来るように、また異変時には家族、訪問看護師、関係医療機関との連携対応が出来るように、緊急時におけるシステムが構築されています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥・窒息・急変時等に備えて、契約職員の看護師から定期的にレクチャーを受けて、訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて定期的に避難訓練を実施し、その内容を地域の消防署へ報告している。	防災マニュアルを整備し消防との連携で避難訓練を行っています。施設の和室が地域の避難場所の一つとなっています。施設主催の研修会など多くの場所で災害時協力のお願いが地域の方々にお話しされています。	施設内非難階段の傾斜が急なため、安全に非難できるように施設の避難経路の改修が検討されています。早期に改修がされますよう期待します。

グループホーム エバーグリーンクラブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い等、常に十分注意しながら対応をしているが、時々余裕がなくなると、言葉かけがきつくなる時がある。	言葉遣いを注意し、一人ひとりのプライバシーや誇りを傷つけない配慮がなされています。仕事や精神面での余裕を欠いた時に対応の拙さが出ることから、管理者と従事者とのコミュニケーションや勤務時間の調整などで解決を図っています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から本人が、自身の思いや希望を気軽に話せるような雰囲気作りを心がけているが、スタッフサイドから誘導することが多く、利用者が自己決定できる場合が少ない。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけひとり一人のペースを大切にするよう心がけているが、職員側の都合を優先してしまうことが多い。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の入居者は、化粧をしたり自由にその日に着用する洋服選び等している。男性の入居者は、希望時に散髪できるように訪問理容を取り入れている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や後片付けは職員と一緒にしているが、調理までには至っていない。	美味しい食事を楽しめるように、キャリアのある調理関係者が地域の食材や季節感を取り入れ、工夫を凝らして調理しています。また手作りのパン作りも行っています。利用者で手伝える方には、配膳や後片付けの手伝いもして力を活かされています。	施設では、パン作りで利用者の方にも参加して頂き、楽しみが増すようキッチン設備の改修を計画されているので、期待しています。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量と水分量はその都度把握し、記録に残し、摂取状況に合わせて、補うように支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをして促し、一人ずつ見守りながら自分で歯磨きをしていただき、口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム エバーグリーンクラブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	観察表を用いてひとり一人の排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導して、できるだけ失禁を減らすよう支援している。	排泄の観察表を使用し、一人ひとりにあった排泄支援がなされています。排泄に関するセミナーを受け施設での排泄介護のスキルアップを図っています。医療機関でオムツ介護になった方のオムツ外しに成功されるなど努力をされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝食後には牛乳をお出しし、そして食事時には水分を多めに取るよう促し、実践している。便秘時には、腹部を温めたタオルをあててマッサージをしたり、ウォーキングを勧めたりしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとり一人の入浴状況を把握し、職員から各自へ入浴するよう働きかけ施行していることがほとんどである。	入所前から一人ひとりの入浴状況を把握し、出来るだけ個々に沿った入浴が出来るように支援がなされています。入浴時は介護者が常時見守り安心して入浴できるように支援がなされています。	家族の協力は得られていますが、頑固に入浴拒否をして問題となっている利用者の方がおられます。運営推進会議の中で地域住民、市役所、関係者を交えて問題解決を図られる事を期待します。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中陽のあたるソファで昼寝をしたり、ホールでテレビを見ながらウトウト居眠りしたり、自由に休息していただいている。ただし、できるだけ昼夜逆転しない程度に声かけしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を保管して、ひとり一人の服用している薬の内容の把握に努め、症状に変化があった際には家族を通して、かかりつけ医へ情報提供している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	まだまだ個別の支援を実践できていない。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員側の外出のタイミングに合わせて外出することが多く、まだまだ本人の希望時に合わせての外出支援はあまり実行できていない。	日常的に天気の良い日はリハビリを兼ねて散歩に出かけています。また本人希望に応じて近所のスーパー等へ買い物へ行ったり、喫茶店に行ったり等もしています。	歩行が困難な利用者の外出支援やドライブでの外出支援など利用者の気分転換やストレス解消、五感の刺激の機会としてさらに取り入れていく工夫を期待します。

グループホーム エバーグリーンクラブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実践した件数は、まだまだ足りない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については家族の都合も考慮して、本人の希望時ごとには対応していない。手紙のやり取りについては、希望時ごとに支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激がないようには配慮しているが、生活感や季節感の取り入れには、まだまだ足りない。	利用者の状態に合わせた家具の配置がなされ、食事やTV観賞などつろいで出来るように配慮されています。食事や行事など季節感を取り入れた工夫がされており、居心地良く過ごせるように配慮されています	今後さらに、利用者や家族、外来者の感想や気づきに傾聴し、運営推進会議でより良い環境づくりの検討をされていくことを期待します。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには数名ずつ腰掛けられるソファを、廊下には一人掛けのソファを置いたりして、自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室において、個人差がある。全入居者に対しては、実践できていない。	居室には使い慣れた家具や物を自由に配置しており、心癒やせる家族の写真や位牌も置かれているなど、居心地良く過ごせる環境は備えられています。	職員は、それぞれの利用者には個人差があるためまだ十分に配慮されていない面もあるという思いがあります。本人、家族を交えて検討し、より良い環境づくりを進めてもらいたいと思います。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂場には手すりや安全バーを設置して安全には配慮しているが、自立した生活がおくれるような工夫はあまりできていない。		